

## 113A - 安全のため、クレルモン＝フェランが夜間の街灯を再点灯

クレルモン＝フェラン市は、街灯を夜通し点灯させることを決定しました。これまで、市内の多くの地域では深夜0時から午前5時まで街灯が消されてきました。この措置は2022年にエネルギー費用削減のために導入されましたが、新しい市政によって廃止されました。

多くの住民にとって、街灯の復活は良いニュースです。明るい街のほうが安全だと考える人が多く、特に夜遅く帰宅する人や早朝に出勤する人にとって安心材料となっています。あるレストラン従業員は、仕事の後に明るい道を歩けることでより安心すると話しています。

新市長は、この決定は住民の強い要望に応えたものだと説明しています。彼によれば、多くの人が暗闇の中を、時には携帯電話のライトだけを頼りに歩くことに不安を感じていたとのこと。

しかし、この決定には反対意見もあります。人工の光は夜行性の動物に悪影響を与え、生物多様性を損なうと指摘する人もいます。彼らは、深夜にほとんど人がいないのに街灯をつける必要はないと考えています。

また、この措置には年間約20万ユーロの費用がかかります。この負担を減らすため、市は消費電力の少ないLED照明への切り替えを進める予定です。

この決定は、安全性、予算削減、環境保護のバランスを取ることの難しさを示しています。

## 113B - パリのカタコンブ、5か月の修復を経て再公開

パリのカタコンブが、5か月間の修復工事を経て一般公開を再開しました。地下約20メートルに位置するこの場所は、パリでも最も珍しく神秘的な場所の一つです。毎年60万人以上の観光客がこの歴史的な場所を訪れます。

タコンブには約700万人分の遺骨が納められており、一般公開されている納骨堂としては世界最大です。訪問者は、狭い通路と骨で覆われた壁が続く巨大な地下迷宮を見学できます。

今回の工事の目的は、遺骨と施設の保存状態を改善することでした。作業員たちは構造の補強、換気の改善、照明設備の更新を行いました。カタコンブは石灰岩の旧採石場内にあり、非常に湿度が高く不安定な環境のため、維持管理が難しい場所です。

遺骨は非常に壊れやすいため、慎重に扱う必要があります。大腿骨や脛骨などの長い骨は壁の表面に使われ、その他の骨はその後ろに配置されています。

カタコンブの起源は18世紀にさかのぼります。当時、パリ中心部の墓地は飽和状態にありました。そのため衛生上の理由から、当局は遺骨を地下の旧採石場へ移すことを決定しました。

1786年から1814年にかけて、17か所の墓地の遺骨がこの地下空間へ移されました。現在、カタコンブは追悼の場であり、歴史的建造物であり、パリを代表する観光名所でもあります。

## 113 – Questionnaire

1. なぜ市は夜通し街灯を点灯させることにしたのですか。
  2. なぜ以前は夜間に街灯が消されていたのですか。
  3. なぜ一部の住民はこの措置によって安心すると感じているのですか。
  4. なぜこの決定を批判する人もいるのですか。
  5. 市はどのようにして費用を削減しようとしていますか。
- 
1. カタコンブはどのくらいの期間閉鎖されていましたか。
  2. およそ何人分の遺骨がカタコンブに納められていますか。
  3. なぜカタコンブの維持管理は難しいのですか。
  4. なぜ遺骨は地下へ移されたのですか。
  5. 今日、カタコンブはどのような場所と見なされていますか。